不登校支援ネットワークにおけるＡＡＴを活用したシステムアプローチ

長野県動物愛護センター　ハローアニマル
○ 松澤淑美　小林文範　小木曽悦人　有賀良次　藤沢英一
小林雅巳　藤森令司　川村昭道　望月弥生　柳澤光咲

1、はじめに

昨今、全国各地で動物介在活動や動物介在療法の検証が行われている。我々動物愛護管理行政に携わる者にとって、こういった動物による社会貢献が認知されることにより、動物の愛護と適正飼養の普及啓発につながる事を希望するところである。特に、教育関係機関との連携による取り組みは、これからの未来を担う子供達に、動物を介して優しさと思いやりの心を育んでもらう重要な事業と考える。

また、平成18年改正教育基本法により、第十三条「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」において学校以外の地域力の活用と連携協力が明記された。長野県では「不登校児童生徒支援ネットワーク推進協議会」（以下不登校支援ネットワーク）が組織され県下10地域で地域力を活用した取り組みが行われている。

平成17･18年度、当施設において不登校および学校不適応傾向の児童生徒を対象としたアニマルアシステッドセラピー（以下ＡＡＴ）を実施し、その心理的効果について報告[1)]したところであるが、今回、不登校支援ネットワークにおいて、このＡＡＴを活用したシステムアプローチを試みたのでその概要を報告する。

2、実施方法

システムアプローチとは、問題を個人ではなく家庭･学校･地域･社会という文脈で見立てて、問題解決を試みていくことである。今回、不登校及び学校不適応傾向の児童生徒を対象とし、平成20年1月から平成21年7月までの間に9名(小学生男子2名女子1名、中学生男子2名女子4名)に対して下記のとおり実施した(図1)。

(1) 相談業務担当者（以下相談者）が学校不適応に関する情報を探知、情報収集を行い、活用できる地域力との調整を行った。

(2) 当施設が、活用できる地域力と判断された場合は、個人に応じたハローアニマルＡＡＴプログラム（以下ＨＡＡＴＰ）を作成した(表1)。活動に参加する動物は、ふれあい活動適性診断基準(表2)により選択し、対象者に応じた環境設定(表3)を行った上でＨＡＡＴＰを実施した。

(3) ＨＡＡＴＰ実施状況は、その都度当施設から相談者に報告した。相談者は、学校、保護者、必要に応じ関係機関(教育委員会、心の相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、保健所、児童相談所、医療機関等)と連絡を取り、共通理解を持ってＨＡＡＴＰを継続できるよう調整した。専門家による保護者への面談と学級担任への適切な支援や協力も同時に行った。

(4) 広域の協議会において不登校に関する学習と情報交換を行った。

3 結　果

今回の実施期間中におけるシステムアプローチの実施対象となった9名のうち、6名(小学生男子2名女子1名、中学生男子2名女子1名)は登校が可能となった。2名(中学生女子2名)は、教育委員会の中間教室への通室が可能となった。1名(中学生女子1名)は登校が可能とはならないが、活動性が上がり生活に変化が見られた(表4)。登校が可能となった6名のうち4名(中学生男子2名、女子1名、小学生男子1名)は、既にＨＡＡＴＰを終了した。

4 考　察

システムアプローチには、本人･家庭･地域(学校)･社会の4つの視点がある。それぞれの視点から今回の事例について考察する。

視点①本人：当施設でのＨＡＡＴＰ実施により、本人は心理状態の改善と自我状態の安定が得られた[1)]。

視点②家庭：保護者は、専門家による面談を受けると共に、子供本人が元気でいる姿を客観的に確認できたことにより、不安が軽減できたと考えられた。

視点③地域(学校)：当施設と学校の連携により、当施設での活動を「校外学習」と位置付け共通理解を持って協議できたことにより、登校が可能になった場合の対応も円滑に行えた。周囲が本人に対して「問題児」という見方をせずに良い面に焦点を当てて検討することができた。

視点④社会：広域な研修会において、ＨＡＡＴＰの効果と当施設の有効活用について情報提供できた。新聞テレビ等でも広報され、一般社会に対して不登校に対する正しい理解の普及啓発が行われた。

不登校及び学校不適応傾向の子供を持つ親は、学校への不信感や社会からの孤立感から不安になりやすく、そのことが更に子供本人に影響を与えてしまうことも少なくない。このシステムアプローチは、原因探しをするのではなく、上手くいっている面に注目し、問題解決の焦点を絞っていくもので、本人と家族そして学校関係者も、それぞれの視点から支援を受けられることが特徴である。

現在、不登校および学校不適応の問題は多様化し、学校だけで解決することは難しいと言われている。そこで、各関係機関が役割分担を明確化し、問題を一人だけで抱えるのでも人任せでもなく協力し合うことが必要となる。

今回のＡＡＴを活用した試みは、周囲が協働し総合的に対応することができた事例と言えた。本人の良い点に注目する際に、動物を介在したＡＡＴは、子供達の笑顔や元気が、見た目で分かり易く、周囲に対して説得しやすいというメリットがあった。

当施設で実施しているＡＡＴが、学校外で活用できる地域力として認知され、子供達の育ちの一端を担えたことに感謝したい。また、このように動物による社会貢献の事例が、動物の適正飼養の普及啓発につながればと願っている。

＜参考文献＞

1） 飯田俊穂, 他:学校不適応傾向の児童･生徒に対するアニマルセラピーの心理的効果についての分析. 心身医 48: 945-954, 2008

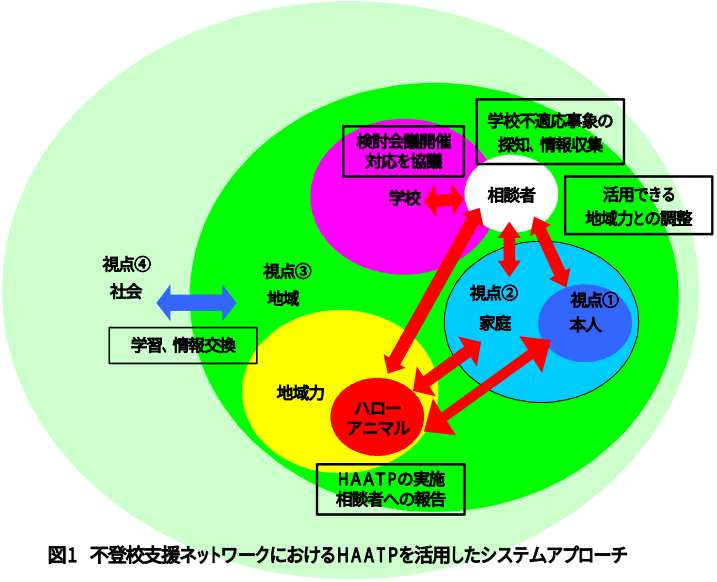

図1 不登校支援ネットワークにおけるHAATPを活用したシステムアプローチ

表1 ハローアニマルアニマルセラピープログラム（HAATP）

ステージ	テーマ	内　　容	期待する効果
ステージⅠ	そのままの自分で	犬･ねこ･うさぎ･モルモット･ヤギのうち自分の希望する動物とのふれあい、自分の好きな動物の絵を描く、折紙で動物を作る、動物の話をする等	緊張緩和 無条件の受容 癒し、自己肯定感 安心感、満足感
ステージⅡ	必要とされている自分	子犬･子ねこの給餌、飼養室の清掃、うさぎ･モルモット･ヤギの世話、犬のグルーミング･運動、子犬･子ねこの社会化補助等	充実感、達成感 愛情の受け与え 感情の表出 セルフコントロール
ステージⅢ	自分の役割	成犬のトレーニング、特定の個体の世話を担当、当施設館内掲示物の作成･展示等	責任感 周囲への肯定感 現実感、信頼感
ステージⅣ	社会参加	一般来館者と動物とのふれあい補助、当施設でのボランティア活動、動物介在訪問活動への参加等	他者との コミュニケーション

表2　動物ふれあい活動適性診断基準

＜犬＞

(1)適正な健康管理がなされている。
(2)初対面の人に対して過剰に反応しない。
(3)他の動物に対して過剰に反応しない。
(4)基本的な合図（オスワリ、フセ、マテ、オイデ）を理解している。
(5)人混みの中でも落ち着いて歩くことができる。
(6)クレートやキャリーバッグの中で落ち着いていることができる。
(7)排泄のしつけができている。
(8)見知らぬ人に触られることに対して過剰に反応しない。
(9)子供の大きな声に対して過剰に反応しない。
⑽ 子供の急激な動作に対して過剰に反応しない。
⑾ 子供に触られた時落ち着いていることができる。
⑿ 初対面の子供に対して拒むことなく注目できる。
⒀ 子供と楽しそうに遊ぶことができる。
⒁ 犬自身が進んで子供の合図に確実に従う、又は合図が不明瞭であっても積極的に注目する。

適性診断基準は、(社)日本動物病院福祉協会の認定基準に準じた7項目(1)～(7)に当センターの基準7項目(8)～(14)を追加して作成した。

＜ねこ、うさぎ、モルモット、ヤギ＞

(1)適正な健康管理がなされている
(2)人に対して過剰に反応しない。
(3)他の動物に対して過剰に反応しない。
(4)見知らぬ人に触られることに対して過剰に反応しない。

表3　環境設定

・ 特定の環境に″こだわり″があれば、それを除いた環境設定とする。・ 同年代あるいは不特定多数の人や特定の風貌の人に抵抗があれば配慮する。・ ステージⅠ導入時の実施場所は、一般来館者の立ち入らない動物飼養スペース（バックヤード）または個室とし、緊張が緩和し安心感が得られるよう配慮する。・ 対応するスタッフは、動物のことを熟知し、動物の許容範囲を超えない対応ができる。・ 対応するスタッフは、子供独特の感受性に敏感に反応できる。

・ 成犬の場合は、犬自ら対象者との遊びに集中するよう設定する。
・ 不慮の事態でも、直接動物に危害が及ばないよう危機管理をする。
・ 対応するスタッフは、対象者に対して、否定･指導･激励･同情的態度で接しない。
・ 対応するスタッフは、対象者に対して肯定的態度で接する。

表4　結　果

番号	学年	性別	相談者	頻　度	期間	HAATPステージ	実施前の状況	実施後及び実施中の状況	備　考	平成21年8月末現在
1	中1	男	教育委員会 臨床心理士	月1回	2年	Ⅲ	学級に入れない	**登　校**	支援学級に登校	終　了
2	中3	女	学校内 心の相談員	月2回	9ヶ月	Ⅱ	不登校	**登　校**	時々相談室に登校	終　了
3	小6	男	学校内 心の相談員	月2回	5ヶ月	Ⅲ	不登校	**登　校**	学級に登校	終　了
4	中2	男	校　長	月2回	3ヶ月	Ⅰ	不登校	**登　校**	成猫譲渡	終　了
5	小2	男	教　頭	月2回	1年	Ⅰ	学級に入れない	**登　校**	支援学級に登校	継　続
6	小5	女	教　頭	月2回	10ヶ月	Ⅲ	不登校	**時々登校**	成猫譲渡	継　続
7	中3	女	校　長	月2回	5ヶ月	Ⅲ	不登校	週2回中間教室とハローアニマル		継　続
8	中3	女	教育委員会 教育相談員	月2回	8ヶ月	Ⅲ	不登校	週1回中間教室とハローアニマル		継　続
9	中3	女	教育委員会 教育相談員	月4回	3ヶ月	Ⅳ	不登校	ハローアニマル		継　続